

平成 23 年度事業報告

(平成 23 年 4 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日)

【概況】

当法人は、昭和 39 年 1 月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。

本年度も禅文化の普及に努め以下の活動を行なった。

調査研究活動では、中国禅宗史・禅語録研究班をはじめ各研究班が従来通りの研究を継続、成果としての刊行にむけての作業を進めている。マルチメディア研究班では京都の禅寺の協力を得てスマートフォンで動作するアプリ『京都禅寺巡り』を開発した。

資料収集・資料公開活動では、デジタルアーカイブスとして禅宗寺院が所蔵する文化財を電子データとして記録し保存する事業を本格化していった。

広報・普及活動では、研究成果として『訓読元亨釈書』を刊行し、全国の図書館や研究機関を中心に購入いただいている。また、上記スマートフォンアプリをはじめ、様々なメディアを利用して禅文化の普及に努めた。

収益事業では、宗教法人管理システム「擔雪」の販売や、受注のシステムとして、新規に妙心寺派布教師会管理システムの構築と納品を行なった。共益事業では、承天閣美術館所蔵資料及び大本山相国寺資料の整理を行なっている。

・ 禅文化普及事業（公益目的事業）

1 調査・研究活動

1. 中国禅宗史・禅語録研究班

当法人は、設立以来語録研究班を組織し、禅文献のうち最重要とされる中国唐宋時代の禅語録を継続して会読している。これらは禅の語録を、唐代・宋代の中国語の口語研究を踏まえ、語彙や文体の変遷と思想史の脈絡にしたがって読解してゆくものである。その成果は、唐宋の思想史解明に新たな観点を提供するものとなり、また、唐宋の口語研究に寄与するものとなる。

参加メンバーは仏教学、哲学、文学、中国語学などの研究者や学生、一般からの参加者などで構成され、学際的な雰囲気の中で研究が行なわれている。

唐代語録（『祖堂集』）研究会〔班長 西口芳男〕

『祖堂集』は『景德伝灯録』の編集に先立つこと 52 年、完存する禅宗灯史の書としては現存最古のものであり、現代の禅に直結する唐五代の禅の資料の古層をなすものとして貴重である。北宋初期の当時の最高の知識人の刊削裁定を経た『伝灯録』に比べて、野趣に富んだ生の資料を提供してくれるものであり、口語研究の資料としても、近年、とみに注目を集めている。既に 40 年前、この研究班では、入矢義高・柳田聖山の指導のもとに

読まれ、当時の原稿によって『訓注祖堂集』(国際禅学研究所報告第8冊、2003年)として当時の成果が発表されている。今回は『祖堂集』を成立させた福州の雪峰教団の禅師をメインにして深く読み進め、『祖堂集』成立の背景を探ることを目的とする。

今年度は、巻七の雪峰義存章、第49則より第55則(最後)まで読み終え、引き続き雪峰の弟子である巻十・玄沙師備(全18則)、同・長生和尚(全10則の第1・2則)までを読了した。

研究会の開催日は、4/8、4/22、5/6、5/20、6/10、6/24、7/8、9/30、10/14、11/4、11/18、12/2、12/16、2/10、2/24、3/9。

班員：衣川賢次(花園大学教授) / 中島志郎(花園大学教授) / 川島常明(大通院住職) / 廣田宗玄(花園大学非常勤講師・順心寺住職) / 松岡由香子(花園大学非常勤講師) / 千田宗琢(花園大学非常勤講師・正眼短期大学講師) / 久保讓(花園大学科目等履修習生) / 薛耀祥(一指禅気功整体院) / 古勝亮(京都大学大学院) / 中瀬祐太郎(花園大学国際禅学科学生) / 金程宇(南京大学文学院域外漢籍研究所副教授・立命館大学文学部客員准教授) / アレックス・バーゼル(ペンシルヴァニア大学・花園大学研究生) / 鈴木洋保(花園大学非常勤講師) / 鈴木史己(京都大学博士後期課程) / 李薇(花園大学大学院) / 林佩瑩(台湾・中央研究院歴史語言研究所) / 大竹晋(花園大学非常勤講師) / オズヴァルド・メルクーリ(花園大学大学院)

「神会語録」研究会〔班長 西口芳男〕

敦煌写本禅宗文献の中で最も重要なものの一つに神会関係のものがある。神会の語録の校訂本には、つとに、胡適氏、鈴木大拙氏のものがあるが、敦煌博物館本やいくつかの断片写本が出揃うと、従来の校定には限界のあることがわかり、新たな定本、正確な訳文、詳細な注釈の作成が待たれていた。本会ではこの点を重視した読解を進めてゆく。

今年度は、前年度より引き続いて『問答雜徵義(神会語録)』の定稿化を進め、第37段より第40段の2までを終えた。

研究会の開催日は、4/27、5/11、6/1、6/15、7/13、10/5、10/19。

班員：衣川賢次(花園大学教授) / 中島志郎(花園大学教授) / 北畠利信(花園大学非常勤講師) / 松岡由香子(花園大学非常勤講師) / 千田宗琢(花園大学非常勤講師・正眼短期大学講師) / 久保讓(花園大学科目等履修習生)

「景德伝灯録」研究会〔班長 西口芳男〕

禅語録中、最も基本的かつ重要な文献である『伝灯録』全30巻を、近年の日中両国の中国口語史研究の成果を踏まえて、千八百の古則公案といわれる問答の一つ一つの意味を解明することに重点を置き読解を進めている。

今年度は、第5冊(巻13・14・15)の定稿化を進め、平成24年7月に発刊予定で現在最終校正中である。巻16は前年に引き続いて、洪州上藍令超禅師、鄆州四禅和尚、江西逍遙山懷忠禅師、袁州蟠龍山可文禅師、撫州黃山月輪禅師、洛京韶山寰普禅師の定稿化を進めた。

研究会の開催日は、5/22、7/31、9/3、11/27、3/25。

班員：衣川賢次(花園大学教授) / 松岡由香子(花園大学非常勤講師) / 千田宗琢(花園大学非常勤講師) / 久保讓(花園大学科目等履修習生) / 三浦國雄(大東文化大学教授) / 土屋昌明(専修大学教授) / 下定雅弘(岡山大学教授) / 末木文美士(国際日本文化研究センター教授) / 齊藤智寛(東北大学準教授) / 石野幹昌(名古屋大学大学院博士課程)

石井修道（駒澤大学教授）／小川隆（駒澤大学教授）／須山長治（駒澤大学非常勤講師）
金程宇（南京大学文学院域外漢籍研究所副教授・立命館大学文学部客員准教授）／
オズヴァルド・メルクーリ（花園大学大学院）／モリー・ヴァラー（スタンフォード大学、
国際日本文化研究センター研究生）

宋代禅語録勉強会〔幹事 藤田琢司〕

僧俗を問わず語録を読む楽しさを知ってもらうため、古来の禅僧や高德の大夫等の逸話を集めた『林間録』をテキストに会読を進める。今年度も引続き巻下を読み進めた。開催日は、5/9、5/31、6/28、7/19、9/5、10/3、11/7、12/12、1/23、2/20、3/19。

参加者 研究所職員の他に、阿部理恵／五十部泰至／井本宗浩／佐々木陵西／佐野泰典
道前宗閑

2．禅宗經典研究班

禅文献に関わる經典類のうち、これまで未開のものについて独自の研究を進めると共に、臨済宗で常用される經典についても、現代に即した内容や形態は何かを究明し、一般に普及する方策を考える。

「楞伽經」研究会〔班長 常盤義伸（花園大学名誉教授）〕

禅文献と深い関わりをもつ『楞伽經』研究は、学界の未開分野とも言われ、長い間、十全な研究がなされてこなかったが、常盤義伸教授は、『楞伽經』四卷本を基に、南条文雄博士校訂梵文を再構成し、世界で初めて完全英訳・和訳を成し遂げた。

本研究会は、常盤義伸著『楞伽宝經四卷本の研究』をテキストとして、梵本と求那跋陀羅三蔵の漢訳本を対比しながら巻二を読み進めている。

研究会の開催日は、4/25、5/23、6/27、7/25、9/26、10/24、11/28、12/19、1/23、2/27、3/26。
班員：西口芳男（禅文化研究所）／小嶋孝（東洋大学大学院哲学専攻・仏教学専攻博士前期課程終了）／種村辰男（塾講師、FAS協会会員）／水野和彦（花園大学大学院博士課程）

臨済宗經典研究会〔班長 西村恵学〕

現代の臨済宗で常用されている經典について、その声明や經本を中心に整理し、現代人に受け入れやすいものを考え、一般に普及するような方策を考慮し、本年度5月に『臨済宗檀信徒經典CD』として制作し頒布した。

3．哲学研究班〔幹事 森 哲郎〕

今年度も継続して「華嚴五教章」の講読研究に取り組んだ。また、当班の仏典研究会である「大蔵会」の研究会は、以下の如く開催された。

4/3、7/30、10/30、2/19 何れも京都大学芝蘭会館地下会議室にて。

なお、この「大蔵会」の仏典研究会以外にも、一昨年度から、上田閑照先生の指導のもとに、西田哲学研究会では『善の研究』を読了し次回より『自覚に於ける直観と反省』に入る予定、また西谷研究会では「寒山詩」を読了して現在は「詩偈」を読んでおり、これらの研究会も、「大蔵会」と同じように3ヶ月に一度、開催している。

4．日本禅宗史・禅語録研究班

日本の伝統教団を形成した祖師たちの伝記や語録を体系的に整備し、現代的に解釈することを目的とする。班員は所員を中心としたメンバーで構成する。

明庵栄西研究〔担当 藤田琢司〕

日本臨済宗の祖師である栄西禅師の著作の所在調査と収集作業を行ない、総合的な資料集として刊行する。前年度と同様、他宗寺院・図書館・資料館等に所蔵される資料の調査・収集を継続するとともに、収集作業を終えた臨済宗建仁寺塔頭兩足院所蔵の資料の検討・データ化・校訂等の基礎的作業を行なった。

『寂室語録』研究〔担当 佐々木陵西〕

永源寺開山寂室元光の語録の解読および訓注・刊行を行なう。『永源開山寂室和尚語録』は南北朝期の漢詩文学の様相を伺うに足る希有な史料であるが、従来本格的な検討がなされたことがなかった。今回の訓注は天台学・禅学双方に造詣の深い天台宗智教寺住職佐々木陵西師が中心となって作成作業を行なっている。

『元亨釈書』研究〔担当 藤田琢司〕

虎関師錬による日本最古の仏教通史『元亨釈書』の訓注作業を行なった。『元亨釈書』のテキストとしては今までは国史大系本が使用されることがほとんどだったが、本研究会ではそれを一新し、著者自筆本の含まれる東福寺本を底本として使用した。また全文影印の書き下し文を附し、さらにほぼ全ての固有名詞に辞典風解説を付す作業を行ない、成果として『訓読 元亨釈書』全二巻を刊行した。

『延宝伝灯録』研究〔担当 阿部理恵〕

日本の禅僧・居士ら約千人の伝記を、元元師蛸が撰述した『延宝伝灯録』の訓注作業を行なう。本書は江戸時代までの日本禅僧の伝記の集大成として位置づけることができるが、歴史学の成果に加えて難解な禅語の知識が不可欠であったため、従来訓読等が刊行されたことはなかった。現在、全文を読み下し文とし、注釈を付す作業を継続中である。

5. マルチメディア研究班〔班長 西村恵学〕

印刷物をはじめ、音声、映像、ホームページなど、多様なメディアを通して現代人に禅をわかりやすく伝える方策を研究する。平成23年度には、一般に普及されつつあるAndroidスマートフォンで動作するアプリ『京都禅寺巡り』を開発し、京都の禅寺院80ヶ寺を紹介し所蔵される宝物や伽藍の説明をした。その広報のために裏面には「正しい坐禅の組み方」を紹介したパンフレットを作成し、寺院や市内のホテルなどにおいて、拝観観光客に配布した。また辰年に絡めて「京都禅寺龍巡り」という企画をおこし、京都の電鉄運輸会社（嵐電・京阪電車・市営地下鉄/ヤサカタクシー）と共同でイベントとして実行した。また、禅文化研究所のホームページを全面的にリニューアルし、ユーザビリティを高めた。それとともにFacebookにも禅文化研究所のページや京都禅寺巡りのページを作成し、情報発信した。

2 資料収集・資料公開活動

1. デジタルアーカイブス

禅の文化として大切に遺されてきた書画を中心としたアーカイブを、劣化しないデジタルデータとして保存していくことを目的とする事業。

将来的には、以下のような事業を通して蓄積した画像と資料に基づいて、「禅文化財WEB博物館」(仮称)を制作し、国内外にバーチャル博物館として、禅の文化財を紹介し

ていく事業として計画中である。

「禅の至宝」(文化財目録整備事業)

各派本山や、文化財を多数所蔵する由緒寺院の宝物を、保存性や再現性に優れた電子データで記録し利用するための「デジタルアーカイブ 禅の至宝」を、(株)アイデアマンユニオン(年度途中より行動化学研究所と改名)と共同して制作し運用している。今年度は、大本山建長寺から提出いただいたデジタルデータ情報をデータベースに登録しはじめるとともに、他の本山にも協力を依頼しつつある。今後5年間をかけての継続事業として予算化しており、最終段階で「禅文化財WEB博物館」(仮称)を制作することを目標としている。

一般寺院什物データベース

に該当しない一般寺院で所蔵している宝物のデジタルアーカイブ整備事業として、簡易なデータベースを内部で開発構築し、当該寺院に絵画・墨蹟類などのデジタル写真での撮影と目録のデータベース化を推奨し、理解を得られた寺院のデータ入力を順次行なっていく。本年度は本データベースシステム構築のための構想と、静岡県2寺院(永明寺・宝池寺)の什物の撮影を行なった。

2. 資料の収集・整理・公開

資料室所蔵品の整理・公開(利用)

当法人がこれまで収集してきた37,000点にのぼる文献資料のうち、未整理分を当研究所で開発した資料管理ソフトを用いて順次入力した。オンライン蔵書検索への対応も検討中。蔵書には、他の図書館や資料館にはない貴重なものが含まれており、これらの閲覧も、従来通り内外の研究者や禅に関心のある一般人に無料で開放した。今年度の購入冊数13冊。

WEB版所蔵墨蹟展

当法人が所蔵する書画を、ホームページ上でバーチャル墨蹟展として随時公開する。今年度は8点を公開した。

禅文化研究所墨蹟曝涼展

禅宗寺院及び当法人が所蔵する書画を一般公開し、美術に関する講演を行なう曝涼展を花園大学と共同で開催する。今年度は、秋に白隠慧鶴の高弟である遂翁元廬の書画を集めた「遂翁元廬 - 禅画と墨蹟 -」展を花園大学歴史博物館にて花園大学と共催し、所蔵墨蹟曝涼展も併設して行なった(入場料無料)。静岡の丈山文庫と永明寺、禅文化研究所の所蔵品より62点を出品。期間中(10/3~12/20)の総入場者数は891名。

黒豆データベース公開事業

当法人がこれまで電子テキスト化してきた禅宗文献のうち、訓注本として発刊してきたものの原文データベースを、簡易検索システムと共にホームページ上で一般に無償公開中で、随時、データファイルを追加する。今年度は、「祖堂集」、「元亨釈書」と「佩文詩韻」のデータを公開した。

問い合わせに関する回答

資料の出典や解説等について、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせが数多く寄せられる。それらの回答に無料で応じている。文書で行なった回答には以下のような質問が寄せられた。

建長寺の竹圃和尚の経歴と資料がないか(個人) / 禅語3句の英訳について(寺院) /

四睡図の説明(個人)/大綱宗彦禅師の墨蹟にある經明という人物について(寺院)/理趣分経について(個人)/禅語の言葉「龍聚鳳翔」の出典は(個人)/花園法皇が夢窓国師のことを批判して「未だ教綱の域を出でず」といった典拠は(個人)/聖澤派(東陽英朝 庸山景庸まで)の行履について(寺院)/大般若経転読が中国で行なわれていたかなど(個人)/画賛読み、意味(博物館)/開山筆の布袋図の画賛を読んで欲しい(寺院)聯の読み(寺院)/書状の意味・読み(寺院)/懐石料理はもともと禅僧の修行からできたものか?など(TV局)/龕前念誦の解釈について(寺院)/他 20 件。その他電話による回答多数。

3 . Wikipedia のデータ修正・登録事業

インターネット上の電子辞書サイト(Wikipedia)の、禅や禅文化に関係する部分を見直し、データの修正作業を適宜行なった。

3 広報・普及活動

1 . 季刊『禅文化』の刊行

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は、220 号～223 号を発行した。主な配布先は寺院、一般、花園大学後援会など。購読会員数 3,210 名。

2 . 研究成果の刊行

日本禅宗史・禅語録研究班の成果

『訓読元亨釈書』 藤田琢司 (平成 23 年 11 月刊行)

初版 500 部 我が国最古の総合的僧伝である『元亨釈書』の完全訓読。

【重版】 『遠羅天釜』3 刷 500 部、『隻手音聲』2 刷 500 部

マルチメディア研究班の成果

2012 年禅語カレンダー 画賛・鈴木宗忠 (平成 23 年 9 月刊行)

初版 50,000 部 禅のこころを生かしたミニ・カレンダー。

禅の庭「銀閣寺」

初版 3,000 部 DVD 禅の庭シリーズの第 4 弾。 (平成 24 年 1 月刊行)

オーディオブック『般若心経』 パンローリング社発行

ナレーターの朗読による CD 版『般若心経』の制作協力。

禅寺案内アプリの普及

【重版】 『般若心経』10 刷 2000 部、『床の間の禅語(新装並製版)』1500 部

禅宗経典研究班の成果

『臨済宗檀信徒経典 CD』 (読経・吹田良忠) (平成 23 年 5 月刊行)

【重版】 『臨済宗檀信徒経典』10 刷 5000 部

禅文化研究所紀要 31 号

(平成 23 年 4 月刊行)

初版 300 部

3 . 公開講義「禅思想の諸問題」 [講師 西村恵信(所長・花園大学名誉教授)]

所長による講義で、『増註 證道歌直截』二巻二冊（萬回一線撰）をテキストに一般社会人を対象に禅の基本思想を平易に教える。毎週火曜日開催を原則とし、今年度は 38 回開催した。平均 20 名参加。

4．ホームページの運営とコンテンツの充実

禅文化研究所ホームページの運営とコンテンツの充実

公益法人の移行に合わせホームページの全面リニューアルを行ない、ユーザビリティの向上をはかった。

臨黄寺院ネットワークの運用協力

臨済禅を世界に発信する公式サイトである臨黄ネットの情報更新及びコンテンツ制作を行なった。とくに今年度は、「引導法語データベース」と「WEB版 絵解き涅槃図」の構築を行なった。また Facebook に臨黄合議所のページを作成して情報発信した。

5．第 12 回東西霊性交

9/17～10/5 までイタリア・ベルギー・アメリカの各修道院より 5 名の修道士・修道女を迎えて実施した。国内の滞在僧堂は、曹源寺（岡山）・萬壽寺（大分）・天衣寺（岐阜）・永平寺（福井）。10/4 に花園大学で報告会を開き、修行体験の発表と日本側との質疑応答を行なった。

6．公開講演会

臨済宗寺院を会場に、所長または他の講師による講演会を開催。また、花園大学と合同で専門道場師家を講師に一般を対象にした講演会を行なう。今年度は秋の遂翁展にあわせて、下記の 2 講演を花園大学教堂で行なった（入場料無料）。

「白隠と遂翁」芳澤勝弘（花園大学国際禅学研究所教授）

「白隠の禅」小倉宗俊（岐阜・瑞泉僧堂師家）

入場者数 130 名。

7．広報・普及

研究成果としての刊行物を、各種媒体を通して広報し、直販、寺院売店、書店の各ルートを通じて普及促進した。また、メールマガジンの発行、Twitter や Facebook などを利用して、より広範囲に普及するよう努力した。新刊の『訓読元亨釈書』については、書店への販売促進や専門誌への広告掲載等により図書館や研究機関、研究者等への普及をはかった。しかし、一般向けの新刊点数が少なかったことや書店での既刊本の売上減少等により、当初の目標には及ばなかった。

現在、売店等で頒布を依頼している本山・寺院は以下の通り（業者委託分含む）。
妙心寺（花園会館）／南禅寺／建長寺／方広寺／永源寺／天龍寺／相国寺（承天閣美術館）
建仁寺／佛通寺／龍安寺（妙心）／鹿苑寺（相国）／慈照寺（相国）／高台寺（建仁）
酬恩庵（大徳）／龍潭寺（妙心）／東慶寺（円覚）

・収益・共益等事業

1 ソフト開発・販売等事業

1. 宗教法人管理システム「擔雪」の販売

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを発売中。宗門を中心に仏教諸宗への販売促進。DM（ダイレクトメール）やネット上のアドワーズ広告等を行なった。最新の Windows7 にも既に対応済み。また、擔雪 の開発検討に入った。

2. オーダー型宗務所管理システムの構築

妙心寺派布教師会管理システムの構築

平成 23 年秋に受注した布教師会管理システムを構築し、平成 24 年 2 月に納品を完了した。保守契約を締結し、毎年度、保守管理料をいただきながら、システム保守を行なう。

相国寺資料目録DBの構築

共益事業で受託している相国寺資料の整理に伴い、整理した資料のデータベースを構築しているが、その資料を閲覧するためのシステムを受注し、制作を開始した。平成 24 年 5 月に納品予定。

南禅寺派管理システムの機能追加

平成 24 年に行なわれる遠諱に向けてのシステムの追加要望に対応し、完了した。

建長寺派管理システムの機能追加と運用サポート

システムの機能追加要望に対応し、その運用をサポートした。

曹洞宗宗務所管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートしてきたが、翌年度からは年間保守サポート体勢に移行していただくように交渉し契約完了した。

天龍寺派管理システムの運用サポート

平成 23 年春に納品完了した末寺管理等のシステムの運用をサポートした。

3. 出版物頒布

他社から委託を受けた禅に関する出版物をホームページやDMなどで案内し頒布した。主な取扱い品：「日本の心 日曆」・「茶禅一如 日曆」・「龍図色紙」（千真工芸）「送喪儀」・「禅聖典」（連合各派布教師会）「白隠禅画墨蹟」（二玄社）「英訳宗門葛藤集」・「英訳夢中問答」（天龍寺国際禅学研究所）「禅学大辞典」（大修館書店）等

2 共益事業

1. 大本山相国寺所蔵資料の整理

前年度に続き、承天閣美術館管轄の図書資料類の整理と大本山相国寺管轄とされる資料の整理を行なった。具体的には所蔵場所や配置の再構築と排架作業及び、資料室内の利用支援であり、成果物として資料リストを作成した。

また、相国寺寺史編纂事業の補佐として、大谷大学にて調査された古文書類が返却され、それらについて、2012年1月からラベル貼付の補佐をおこなっていたが年度内に終了した。

2．寺院委託出版

『訓注雪潭和尚語録並年譜』(平成23年4月)

『図録 中山寺』(平成23年4月)

中山寺パンフレット(平成23年4月)

また、南禅寺派大蔵院の依頼を受け、大蔵院第8世大解宗脱の語録類の訓読を行ない、平成24年4月に『大蔵院と大解宗脱和尚』として刊行した。

3．引導法語データベースの公開

妙心寺派教学部と共同で制作した引導法語データベースについて、適宜、訓注の適用を行ない、データベースの補完をした。現在の登録数287法語。

4．臨黄合議所事務局

年間会議

平成23年4月13日(水) 理事会(妙心寺派宗務本所)

平成23年9月7日(水) 理事会(妙心寺派宗務本所)

平成23年10月25日(火) 総会(妙心寺花園会館)

平成24年1月17日(火) 理事会(京都ブライトンホテル)

平成23年8月31日(水) 教学部長会(花園大学教堂)

平成23年10月25日(火) 教学部長会(花園大学教堂)

平成24年2月7日(火) 教学部長会(花園大学教堂)

平成24年3月29日(木) 理事長本山引継ぎ(妙心寺派宗務本所)

「臨黄会報」の発行(35号・36号)

臨濟禅師1150年・白隠禅師250年遠諱事業の推進

事業計画と予算案を策定し、専門部会と参与会を開催した。

臨黄互助会の促進

中国仏教界との交流(日中臨黄友好交流協会)

第8回臨黄教化研究会の実施(平成24年2月23日・24日)

会議等の事務処理

5．後援会活動

今回は諸般の事情により開催できず。